

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
国語表現	2単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	国語表現（大修館書店）	副 教 材	リアルマスター3300（尚文）
-------	-------------	-------	-----------------

科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	声とコミュニケーション 言葉のストレッチ体操 書いて伝える 整った文を書く わかりやすい文を書く 文のつなぎ方 絵や写真を見て書く 自己PRと面接	・わかりやすく読みやすい、整った文章を読む力を身に付ける。 ・目的や場に応じて、言葉遣いなどを工夫する。
2 学 期	会話・議論・発表 議論して結論を出す プレゼンテーションの工夫 表現を楽しむ 魅力的なポスターを作ろう わが町自慢のパンフレット作り エッセイを書こう	・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめる。 ・目的に応じてメディアを選択し、効果的に表現する。
3 学 期	演説合戦にチャレンジ	・目的に応じて情報を整理し、内容や表現の仕方を工夫する。
備 考 (学習のポイント)	1 進路実現をめざして、入学試験の小論文をきちんと書くことができるようにしよう。 2 正しい言葉遣いをし、自分の考えをはっきり述べるができるようにしよう。 3 わからない言葉はすぐに辞書を引いて調べ、語彙を増やそう。 4 文章の要点を読み取り、要旨をまとめることができるようになろう。	

評 価 規 準	知識・技能	言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解し、表現の特色について理解を深め、適切な表現や言葉遣いを使い分けられているか。
	思考・判断・表現	自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方が工夫できているか。
	主体的に学習に取り組む態度	正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点				
---------	---	--	--	--	--

地理歴史

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
歴史総合	2単位	農業科（畜産科）	3年

教科書	明解 歴史総合（帝国書院）	副教材	
-----	---------------	-----	--

科目の目標	歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる資質・能力を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	近代化と私たち 1 江戸時代の日本と結び付く世界 2 欧米諸国における近代化 3 近代化の進展と国民国家形成 4 アジア諸国の動揺と日本の開国	・事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方を理解する。 ・欧米諸国の進出が現代社会に与えた影響と課題について追究する。
2 学 期	5 近代化が進む日本と東アジア 国際秩序の変化や大衆文化と私たち 1 第一次世界大戦と日本の対応 2 国際協調と大衆社会の広がり 3 日本の行方と第二次世界大戦	・資料を分析し、情報を適切に取り扱う技能を身に付ける。 ・大衆の戦争協力が与えた影響について考察する。
3 学 期	4 再出発する世界と日本	・第二次世界大戦後の新たな国際秩序が、日本や東アジアにどのような影響与えたか理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 2 家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の復習をしよう。 3 歴史的用語、人名は漢字で書けるようにしておこう。 4 社会の動きに注目し、学習内容と世界の動向とを結びつけて考えよう。	

評価 規 準	知識・技能	現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	歴史的事象の特色を、現在とのつながりに着目して考察し、構想したことを効果的に説明できる。				
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。				
定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施 予 定	○	○	○	○	○	
評 価 方 法	定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出（授業中の取組や家庭での復習状況） ○授業態度（意欲的な態度、発表内容） ○課題提出（ワーク作業や長期休業中の課題など） ○定期考査（考査範囲の適切かつ計画的な学習成果）					

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学Ⅱ	3単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	新 高校の数学Ⅱ（数研出版）	副 教 材	ポイントノート 数学Ⅱ（数研出版）
-------	----------------	-------	-------------------

科目の目標	基礎的な知識の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1章 複素数と方程式 式と計算 複素数と2次方程式 式と証明 2章 図形と方程式 点と座標 円の方程式	- 複素数の四則計算を学ぶ。 - 高次方程式の解法を学ぶ。 - 式や図形から様々な公式を学ぶ。
2 学 期	2章 図形と方程式 不等式と領域 3章 三角関数 三角関数の相互関係 加法定理 4章 指数関数・対数関数 5章 微分法と積分法 微分係数と導関数 導関数の応用	- 不等式が示す領域を正しく理解し、図示する。 - 三角関数の特徴を学び、グラフや公式を押さえる。 - 指数関数・対数関数の特徴を学ぶ。 - 微分法を用いて3次関数のグラフをかく。
3 学 期	5章 微分法と積分法 定積分 定積分と面積	積分法の基本的な計算を学び、与えられた面積を求める。
備 考 (学習のポイント)	1 第1章では、数学Ⅰで学習した基本的な計算方法を定着させておく必要があります。 2 第2章では、式から図形を読み取ることが必要です。正しい図をかくことを心掛けましょう。 3 第3・4章では、関数から方程式、不等式を解くためのポイントを押さえていきましょう。 4 第5章では、関数の値の増減を理解し、関数のグラフを正しく丁寧にかくことが問題解決につながります。	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解している。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考查、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元毎の小テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学A	2単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	副 教 材
新高校の数学A（数研出版）	ポイントノート数学A（数研出版）

科目の目標
基礎的な知識の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1章 場合の数と確率 場合の数 確率 2章 図形の性質 平面図形	- 集合や順列、組合せを利用して、様々な場合の数について学ぶ。 - 実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を学ぶ。 - 平面図形の基本性質について理解する。
2 学 期	2章 図形の性質 空間図形 3章 数学と人間生活 約数と倍数 ユークリッドの互除法	- 図形を空間的に捉え、その形や特徴について理解する。 - 最大公約数を求める方法のユークリッドの互除法を学ぶ。
3 学 期	3章 数学と人間生活 2進法 点の表し方 数学とゲームパズル	- 様々な数の表し方を学ぶ。 - ゲームやパズルを用いて数学的に考察する方法を学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 第1章について、順列と組合せの使い分けができるように、何度も演習することが重要です。 2 第2章は、三角形や円の性質など平面図形に関する基礎的な内容を学んでいきます。円周角の定理など中学校で学んだことも出てきます。正しい図をかくことを心掛けましょう。 3 第3章は、約数・倍数・最大公約数等について改めて学び発展させていきます。まずはこれまでに学んだ基本的な性質を理解しておいてください。	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解している。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元毎の小テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

保健体育

科目名	単位数	学科	学年
体育	3単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教科書	新高等保健体育（大修館）	副教材	イラストでみる最新スポーツルール（大修館）
-----	--------------	-----	-----------------------

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	体づくり運動（通年）集団行動 新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（ソフトボール・バレーボール・ソフトテニス） 体育理論（生涯スポーツの見方・考え方） （ライフステージに応じたスポーツ）	・ 自己の体力や生活に て取り組み、実生活に役 立てる。 ・ ペースの変化に対応する などして走る。
2 学期	球技Ⅱ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（サッカー・バスケットボール・バドミントン） 陸上競技〔中・長距離走〕 校内マラソン大会【男子】8km【女子】4km 体育理論（日本のスポーツ振興）	・ 作戦や状況に応じた技能 や仲間と連携してゲーム が展開できるようにする。
3 学期	球技Ⅲ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バスケットボール・バレーボール・卓球） 体育理論（スポーツと環境）	・ 豊かなスポーツライフの 設計の仕方について理解 できるようにする。
備 考 （学習のポイント）	1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。（5分前行動） 3 互いに協力して自己責任を果たそう。	

評価 規 準	知識・技術	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。				
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。				
定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実 施 予 定						
評 価 方 法	授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度・意欲（授業の参加状況、意欲的でまじめな態度） ○ 運動の技能（各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度） ○ 体育理論の理解度（理解度の確認テスト）					

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
美術Ⅱ	3単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	美術2（光村図書）	副 教 材	
-------	-----------	-------	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	工芸 デザイン 日常生活のデザイン 箸置きデザインの制作 アイデアスケッチ、原型制作 シリコンゴムの型どりと鋳合金の鋳込み 仕上げ、刻印打刻 鑑賞 作品の相互鑑賞	・使う、遊ぶデザインの理解 ・道具の正しい扱い方を理解する。
2 学 期	工芸 指輪の制作、銀の板を切る、刻印を打つ、 バーナーでロウ付け、やすりで整形、 サンドペーパーで磨く。	・卒業の記念になるものを自分で作る。 ・身に付けるデザインを理解する。
3 学 期	デザイン 指輪の箱制作 パッケージデザイン 名前を入れたデザインの箔押し	・3年間の総決算としての制作を意識する。
備 考 (学習のポイント)	1 様々な表現方法を学び、技術を身に付けよう。 2 自分の思いを表現しよう。 3 作品の良さを発見し言葉にして伝えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					
評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出（授業内容の理解の確認）… Ⅰ・Ⅱ の観点 ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表など）… Ⅲ の観点 ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）… Ⅱ・Ⅲ の観点 ○鑑賞プリントの提出 … Ⅱ・Ⅲ の観点				

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
音楽Ⅱ	3単位	農業科（畜産科）	3年

教科書	音楽Ⅱ Tutti plus（教育出版）	副教材	
-----	----------------------	-----	--

科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱表現 日本歌曲 器楽表現 リコーダー 創作表現 動機を用いた旋律づくり 鑑 賞 ミュージカル	・山田耕筰の作風を理解する。 ・いのちの名前が演奏する。 ・創意工夫のある旋律を創作する。 ・ミュージカルの魅力を理解し、言葉で他者に伝える。
2 学 期	器楽表現 ギター 器楽表現 カンカラ三線 鑑 賞 古の音楽	・ギターだけで合奏をする。 ・カンカラ三線を制作し、基本的な奏法を身に付ける。 ・段物について理解する。
3 学 期	鑑 賞 アメリカ育ちのクラシック音楽	・アメリカで生まれた様々なジャンルの音楽を鑑賞し、その歴史や音楽の特徴を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 2 他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 3 日常生活においても、様々な音楽と親しもう。	

評 価 規 準	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付ける。				
定 期 考 査		1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定						
評 価 方 法		実技テストや小テスト、ワークシートの記述内容、授業態度などを総合的に評価する。 ○実技テスト ○小テスト ○ワークシートの記述内容 ○授業態度（積極性、練習への取り組み等）				

外国語（英語）

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
英語コミュニケーションⅡ	3単位	農業科（畜産科）	3年

教科書	COMET English Communication Ⅱ (数研出版)	副教材	
-----	---	-----	--

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	Lesson 1 Places Worth Visiting Lesson 2 Iwago Mitsuaki Lesson 3 The Haka Lesson 4 Digital Detox Lesson 5 Goal Setting	・訪れてみたい場所 ・動物撮影の秘訣 ・ハカに関する内容 ・デジタル機器との関わり ・効果的目標設定の方法
2 学 期	Lesson 6 The High School Hair Salon Lesson 7 You Can Make a Difference Lesson 8 Nudge Lesson 9 The Father of Braille Blocks Lesson 10 Do We Need That? Lesson 11 The Vancouver Asahi	・高校生美容室の活動 ・パリのレジ袋撤廃運動 ・人を動かす小さな工夫 ・点字ブロック開発の経緯 ・日本のサービスについて ・日系カナダ人の活躍
3 学 期	Lesson 12 From Small Companies to the World	・小さな会社の開発力
備 考 (学 習 の ポ イ ン ト)	1 各レッスンの学習項目についての感想や意見を英語で表現する。 2 「学習のねらい」の文法と使い、身の回りのことを英語で表現する。 3 発表やディスカッションを通して、英語学習の楽しさを学ぶ。	

評 価 規 準	知識・技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えを的確に理解している。
	思考・判断・表現	基本的な英語表現を用いて話したり書いたりして、情報や考えなどを相手に伝えようとしている。
	主体的に学習に取り組む態度	英語を用いたコミュニケーションに関心を持ち、積極的に伝えようとする態度がみられる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノートや課題の提出、授業態度を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、挙手による積極的な発表） ○ 小テスト、発表の内容と態度
---------	---

家 庭

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
保育基礎	3単位	農業科（畜産科）	3年

教科書	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）	副教材	
-----	-------------------------------	-----	--

科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	子どもにかかわる職業 1章 子どもの保育 5章 子どもの文化 保育技術検定	・「保育」の意義、子供が育つ環境、保育施設の特徴について学ぶ。 ・子供を取り巻く遊びや文化について理解を深める。 ・言語表現、音楽・リズム表現、造形表現、家庭看護表現について、実習を通して学ぶ。
2 学 期	2章 子どもの発達 3章 子どもの生活 （実習）調理実習 被服製作実習 5章 子どもの文化 （実習）児童文化財の製作	・子どもの発育・発達に応じた適切な保育の重要性について学ぶ。 ・子どもの健康を守り、健やかな成長・発達を支えるための知識と技術を学ぶ。 ・幼児向けおもちゃの製作を行い、発表・相互評価を行う。
3 学 期	4章 子どもの福祉	・児童福祉に関する基本的な法規の目的と概要を学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 子どもの安全を守るために、正しい知識を習得しよう。 2 思春期の健康が健全な母性・父性の育成につながることを理解し、実践しよう。 3 子どもの理解を深めるために、乳幼児とのふれあいを大切にしよう。 4 子どもたちと楽しく遊んで、遊びの意義を理解しよう。	

評価 規 準	知識・技能	子どもの成長・発達を理解し、子どもの生活を支えるための知識・技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	子どもを産み育てることや、家庭や地域の役割についての課題を見出し、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	子どもの成長・発達に興味関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身に付けている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、提出物（課題、プリント）、授業の取り組みの様子などを総合的に評価する。 ○ プリント提出（整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元ごとの確認テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
畜産	4単位	農業科（畜産科）	3 年

教 科 書	畜産（実教出版）	副 教 材	
-------	----------	-------	--

科目の目標	（１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目		学 習 の ね ら い
1 学 期	養豚 1 豚の繁殖 ・生殖器・性成熟と発情周期 ・胎児の発育と分娩 ・異常分娩と奇形 ・母豚の飼養管理 2 肉豚の肥育 ・養豚飼料と食糧自給率	酪農 1 飼料作物の特徴と草地の管理 ・サイレージ調製、事故 ・サイロの種類 2 子牛の育成 ・人工哺乳・離乳 3 飼料の特性と給与 ・栄養要求率・飼料計算	・豚の繁殖と牛の肥育について知識や技術を身に付ける。 ・飼料作物やサイレージ調製時の事故防止のために知識や技術を身に付ける。
2 学 期	・防暑対策 ・繁殖雌豚の育成 ・飼料の種類と特性、配合 3 豚の病気と予防衛生 ・健康状態の観察 ・飼育環境と予防衛生 4 養豚の経営 ・経営形態とその特徴 ・企業養豚	・飼料計算・乾乳期の管理 4 飼育環境の調節 5 排泄物の利用 ・ふん尿の処理、利用 6 酪農の経営 ・経営に形態・牛乳の流通 ・経営の診断 7 技術成績と収益の関係 ・血統登録・牛群審査	・肉豚の育成、予防衛生、養豚の経営についての知識や技術を身に付ける。 ・酪農経営やふん尿の処理、家畜改良と収益について知識や技術を身に付ける。
3 学 期	5 家畜排泄物の処理と利用 ・汚水処理・堆肥製造	8 乳牛の繁殖 ・受精卵移植	・汚水処理や受精卵移植について学習する。 ・学習内容をまとめる。
備 考 (学習のポイント)	1 乳牛や豚など家畜の飼育の方法を学ぶ科目です。 2 家畜と直接ふれあって習性や飼育方法を学びましょう。 3 繁殖をさせなければ乳・肉・卵などの生産物はできません。繁殖についてしっかり学びましょう。生産物を有利に販売する方法についても学び、経営者能力を身に付けましょう。		

評 価 規 準	知識・技術	・家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を身に付けることができたか。
	思考・判断・表現	・授業・実習を通して身に付けた技能を応用し、適切な判断ができたか。
	主体的に学習に取り組む態度	・提出物の内容や授業中の発言等、意欲的に取り組むことができたか。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等で総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な姿勢） ○課題提出（小テスト及び長期休業中の課題）
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業経営	3単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	農業経営（実教出版）	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	（１）農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。 （３）農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	農業経営の会計 1 簿記の基礎 (1)簿記とは (2)資産・負債・資本 (3)収益・費用 (4)取引と勘定 (5)仕訳と総勘定元帳 (6)試算表・精算表	・ 簿記の基礎を身に付ける。
2 学 期	2 簿記の実際 (1)現金・預金 (2)棚卸し資産 (3)掛け取引 (4)その他の債権・債務 (5)資産・負債の種類と固定資産 (6)家族経営の資本 (7)収益・費用（その２） (8)決算 (9)帳簿と伝票	・ 簿記の記帳方法を身に付ける。 ・ 畜産業における経営の特徴と記帳方法を身に付ける。
3 学 期	3 原価計算 (1)内部活動と原価計算 (2)生産費と農家資産の評価 (3)複式簿記による原価計算	・ 経営診断方法及び改善方法を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	「農業経営」では、わが国の農業の現状を知り、農業経営の実態と特徴を理解することが大切です。経営実態を正確に知るためには、簿記の記帳の仕方を理解する必要があります。	

評価基準	知識・技術	・ 農業経営に興味を持ち、内容の理解に努めているか。				
	思考・判断・表現	・ 簿記の原理を理解し、経営に生かすことができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・ 提出物の内容や授業中の発言等、意欲的に取り組んでいるか。				
定期考査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査・提出物・授業態度・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
地域資源活用	2単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	地域資源活用（実教出版）	副 教 材	
-------	--------------	-------	--

科目の目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	・地域資源活用とは ・地域資源の価値と活用 ・地域資源活用の意義と役割	・課題意識をもって学習に臨み、プロジェクト学習を活用した学習展開を行う。
2 学 期	・地域資源活用の意義と役割 ・地域と連携した活動	・農業林業の特徴を知り、その魅力を理解させる。 ・農山村の特徴を知り、その魅力を理解させる。 ・アグリビジネスなどを取り入れた新たな魅力を理解させる。
3 学 期	・地域と連携した活動	・人々の連携や役割分担の重要性など、地域資源を活用する活動の進め方を理解させる。 ・地域コーディネータの役割や必要とされる知識について理解させる。
備 考 (学習のポイント)	1 実践的・体験的な学習が多く、実習を伴うため、実習服の着用が必要。 2 地域づくりの重要性や地域づくりの流れを理解する。 3 農林業体験の現状を理解し、農林業体験の実施方法について、基礎的な知識や技術を基に合理的に判断し、その過程を表現することができる。	

評 価 規 準	知識・技術	地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・小テスト・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な実習・発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
総合実習	4単位	農業科（畜産科）	3年

教科書	副教材
-----	-----

科目の目標	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理に繋がる知識や技術が身につくよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 専攻別実習 ・ 大家畜 乳牛の体の特徴や日常の管理方法について ・ 中小家畜 豚や鶏の体の特徴や日常の管理方法について ・ 栽培 土作りや野菜・草花の日常の管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動の実施、まとめ、発表	・ 各専攻班の管理ができる。 ・ プロジェクト活動に取り組む姿勢を身に付ける。
2 学 期	2 専攻別実習 ・ 大家畜 飼料作物の栽培と調整について ・ 中小家畜 豚・鶏の繁殖・育成等の飼養管理方法について ・ 栽培 タマネギ苗や草花の栽培管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動の実施、まとめ、発表	・ 各専攻班の管理ができる。 ・ プロジェクト活動のまとめ発表ができる。
3 学 期	3 専攻別実習 ・ 大家畜 乳牛の毛刈りや調教について ・ 中小家畜 ポニー等の小動物の管理方法について ・ 栽培 野菜苗の栽培と管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動レポートの作成	・ 各専攻班の管理ができる。 ・ プロジェクト活動の評価、課題を見つけることができる。
備 考 (学 習 の ポ イ ン ト)	1 総合実習は動植物を扱う科目です。適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備は怪我につながるのできちんとしよう。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳を必ず準備しよう。 4 危険を伴う実習もありますので先生の説明をよく聞き、機器の使い方を理解した上で、実習に取り組もう。 5 プロジェクト活動に積極的に取組に取り組もう。 ※1単位は放課後、土日、祝祭日、長期休業中に実施する。	

評 価 規 準	知識・技術	専門的な知識を身に付け、安全に効率よく実習できる技能を身に付けたか。
	思考・判断・表現	農業実習において、基礎的な知識を身に付け、適切な判断ができたか。
	主体的に学習に取り組む態度	実習に取り組む態度や報告書の内容など、意欲的に実習に取り組んでいるか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、プロジェクト発表、プロジェクト活動レポート提出、実習報告書、行事報告書、課題提出、出席状況等を総合的に評価する。
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
草花	2単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	草花（実教出版）	副 教 材	
-------	----------	-------	--

科目の目標	(1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 草花生産と消費の動向 (1) 草花生産の特徴 (2) 草花生産と消費の動向 2 生活と草花の利用 (1) 草花の多面的利用 (2) 園芸デザイン 3 草花の特徴と栽培技術 (1) 草花の生育と環境 (2) 品種改良と繁殖	・草花栽培の基礎的・基本的な栽培管理についての知識や技術を身に付ける。
2 学 期	(3) 草花の生育と栽培技術 (4) 生産施設と栽培環境の調節 4 花壇用草花生産 (1) 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の利用と定植後の管理 (3) 花壇用草花の栽培 5 切り花生産 (1) 切り花生産の特色 (2) 切り花の品質保持	・花壇用草花生産の特色を理解し、基礎的・基本的な知識と技術を身に付ける。
3 学 期	6 鉢ものの生産 (1) 鉢ものの生産の特色 (2) 鉢ものの生産資材と商品化技術	・鉢ものの生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 授業中に理解できなかったことは、そのままにしないで積極的に質問してください。 2 ノートやファイルは板書事項を写すだけでなく、自分で考えたことや疑問に思ったことをメモしておく、後に役立ち、学習に広がり生まれます。 3 農機具を使用する場面もあるので作業の安全に気をつけてください。	

評 価 規 準	知識・技術	・草花栽培技術、生活の中での草花の重要性や、栽培に適した環境等について理解し、草花の成長に応じた管理作業を行うことができるか。
	思考・判断・表現	・草花の栽培に関して適切な判断や工夫ができたか。
	主体的に学習に取り組む態度	・草花の特性や栽培技術を理解し、意欲的に実習に取り組むことができたか。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
課題研究	2単位	農業科（畜産科）	3年

教科書		副教材	
-----	--	-----	--

科目の目標	(1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 テーマ設定 2 課題研究テーマ発表 3 分野別研究・調査・製作活動 4 課題研究中間発表会	・テーマ設定、計画が自発できる。 ・継続的に取り組める態度を身に付ける。
2 学 期	5 分野別研究・調査・製作活動 6 研究成果のまとめ 7 2学期の反省	・継続的に取り組める態度を身に付ける ・研究内容のまとめができる。
3 学 期	8 研究成果のまとめ 9 課題研究成果の発表	・研究内容を発表できる。 ・レポート作成できる。
備 考 (学習のポイント)	1 自らテーマを考え、自発的に学習しよう。 2 計画を立て、継続的に研究を進めていこう。 3 グループの仲間と協力して研究を進めていこう。 4 自分の研究について自ら評価していこう。	

評 価 規 準	知識・技術	・研究テーマについて理解を深め、知識を自ら取得して行動することができたか。
	思考・判断・表現	・年間を通して、自ら計画を立て継続的な活動ができているか。
	主体的に学習に取り組む態度	・課題を設定し、積極的な態度で学習に取り組むことができたか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	研究レポート提出、計画書提出、実施報告書、テーマ発表会、中間発表会、まとめ発表会、出席状況などを総合的に評価する。
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業と情報	2単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	農業と情報（実教出版）	副 教 材	
-------	-------------	-------	--

科目の目標	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 情報システム ・私たちの生活と情報システム ・農業における情報システム 2 ワードプロセッサの利用 3 農業情報と伝達通信メディア 4 農業各分野における情報の活用	・情報システムと農業との関係についての知識や技術を身に付ける。
2 学 期	5 農業のシステム化 ・精密農業 ・農薬使用リスク管理システム ・農産物の安全システム 6 データベースシステム ・データベースの利用	・情報システムの農業分野での活用法についての知識や技術を身に付ける。
3 学 期	7 農業とプロジェクト学習 ・プレゼンテーションソフトにおけるプレゼン作成	・プロジェクト学習のまとめ方、発表方法を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 1、2年次よりも農業分野と関連性の高い内容を学習します。これまでの農業科目で学んだ内容と関連づけたり、活用法や応用方法を考えると良いと思います。 2 農業と情報の授業での技術が身に付いているか確認します。学んだ技術を実際に応用できるように学習に取り組みましょう。	

評価規準	知識・技術	・情報の応用に興味を持ち、内容の理解に努めているか。				
	思考・判断・表現	・農業に関するデータ処理において科学的な思考や判断ができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・農業の情報に関する応用力を身に着けるよう努力しているか。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・出席状況等を総合的に評価する。 ○作成したプリントの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業機械	3単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	農業機械（実教出版）	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	(1) 農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 農業機械の役割 (1)農業機械化の意義 (2)農業機械の利用とその現状 2 内燃機関 (1)4サイクルエンジンの作動原理 (2)4サイクルエンジンの構造 (3)4サイクルエンジンの取扱いと整備 (4)エンジンの分解 (5)エンジンの性能 (6)燃料と潤滑油	・ 農業機械の構造を理解し、メンテナンス技術を身に付ける。
2 学 期	3 乗用トラクタ (1)種類 (2)基本運転と操作 (3)作業の安全確保 (4)構造と機能 (5)トラクタの性能 (6)点検整備 4 作業機 (1)すきとプラウ (2)碎土機 (3)ロータリとロータ (4)牽引	・ トラクタの運転操作を習得し、作業機の特性やメンテナンスの知識を身に付ける。
3 学 期	5 農業機械と安全 (1)農業機械の整備と保守 (2)農作業による事故と健康障害 (3)エネルギーと農業機械	・ 農業機械の安全な運転のための知識・技能を身に付ける。
備 考 (学 習 の ポ イ ン ト)	1 農業機械を操作する楽しさを体験しよう。 2 農業機械の取扱いにおいては、実習服を着用して行います。服装の不備は事故につながるの できちんとしよう。 3 農業機械の操作では、危険を伴うので、先生の話をよく聞き、操作方法を理解した上で、取 り扱おう。	

評価 規 準	知識・技術	機械の原理、構造について理解できているか。実習において機械の安全に留意した正確な作業ができているか。				
	思考・判断・表現	機械の操作等についての的確な理解と判断力が備わっているか。				
	主体的に学習に取り組む態度	常に関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身に付いているか。				
定期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末	
実施 予 定	○	○	○	○	○	
評価 方 法	定期考査、授業態度、実習態度を総合的に評価する。 ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表、考える姿勢） ○小テスト、自習プリントなど ○実習（道具の使い方、トラクタの運転）、実技テストなど					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
野菜	4単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	野菜（実教出版）	副 教 材	
-------	----------	-------	--

科目の目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	・果実を利用する野菜の栽培 トマト、ナス、ピーマン	・地域農業の特性と代表的な野菜について学習することを確認させる。 ・栽培上の特性は観察や実験実習を通して学ばせる。特に高温では着花位置が高くなり落花しやすいことを観察させ、栽培環境と生育との関係を科学的に考えさせる。
2 学 期	・果実を利用する野菜の栽培 カボチャ、スイートコーン ・葉や花茎を利用する野菜の栽培 ブロッコリー、ハクサイ	・マルチング、植え付け、支柱立て、整枝・誘引、かん水、追肥、収穫、病虫害予防管理の目的と方法を理解させ、実施できるようにする。
3 学 期	・葉や花茎を利用する野菜の栽培 ブロッコリー、ハクサイ	・冷涼な気候を好み、省力化できることを理解させ、季節によって産地が大きく異なる理由も考えさせる。
備 考 (学習のポイント)	1 実践的・体験的な学習が多く、実習を伴うため、実習服の着用が必要。 2 栽培の基礎を応用し、より実践的な知識と技術を身に付ける。 3 新鮮・良質・安全な食料供給を考える。	

評価 規 準	知識・技術	・野菜栽培の基礎知識を身に付け、安全面を十分に注意しつつ円滑な作業・操作ができているか。				
	思考・判断・表現	・座学の内容を的確に理解し、実践できる判断力が備わっているか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・野菜の栽培に関心を持ち、内容の理解に努め積極的に取り組んでいるか。				
定期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末	
実 施 予 定	○	○	○	○	○	
評 価 方 法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・小テスト・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な実習・発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
食品製造	3単位	農業科(畜産科)	3年

教 科 書	食品製造 (実教出版)	副 教 材	
-------	-------------	-------	--

科目の目標	(1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 食品製造の意義と動向 (1) 食品製造の意義 (2) 食品産業の現状と動向 2 食品製造の意義 (1) 食品の分類 (2) 身近な食品の科学 3 畜産物の加工 (1) 鶏卵の加工 4 食品の変質の貯蔵 (1) 食品の変質とその原因 (2) 食品の貯蔵 5 食品加工と食品衛生 (1) 食品と食品衛生	・「食品」について、正しく理解し、食品製造の目的や消費者ニーズに対応する必要性を理解する。
2 学 期	(2) 食中毒 (3) 食品による危害と安全保障 (4) 食品添加物 6 農産物の加工 (1) 穀類の加工 (2) 豆類の加工 (3) いも類の加工 (4) 野菜類の加工	・農産物の加工品の製造原理と加工方法の知識と技術を身に付ける。
3 学 期	(6) 果実類の加工	・果実類の加工製造原理と加工方法に関する知識と技術を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	○ 食品衛生には特に気を付けなければなりません。そのため、実習前には爪切りや手洗いを習慣化してください。 ○ いつも食べる人の喜ぶ顔を意識して最高のものを作るように心掛けましょう。	

評価基準	知識・技術	・製造実習の内容を理解し、効率よく実習ができる技術を身に付けたか。 ・必要な知識や役割等を理解できたか。				
	思考・判断・表現	・製造実習において基礎的な知識を身に付け、適切に判断ができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・食品製造実習に意欲的に取り組んでいるか。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・出席状況等を総合的に評価する。 ○ファイルの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
飼育と環境	2単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	飼育と環境（海文堂）	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	(1) 飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 飼育と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 飼育の目的と現状 (1) 現代社会における動物飼育の目的 (2)飼育の現状と動向 (3)人々の生活における動物の授業と動向 2 飼育と環境 (1) 動物の種類と特性 (2)発育と環境 (3) 衛生と環境	・動物の生理・生態や生育環境など、動物の発育に関する知識を身に付ける。
2 学 期	3 飼育技術と管理・評価 (1) 社会動物（イヌ・ネコ・愛玩鳥・爬虫類） (2) 産業動物（ヒツジ・ヤギ・ウマ） (3) 実験動物	・動物の生理・生態や飼育環境に対する適応性など、飼育的な特性について、知識と技術を身に付ける。
3 学 期	(4) 野生動物の現状や保護活動の取組	・野生動物の現状や保護活動の取組に関する知識を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 実習を通して、動植物の適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備はけがにつながるので、きちんとしてよう。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳を必ず準備しよう。 4 動物管理実習においては危険を伴う場合もありますので、先生の説明をよく聞き、理解した上で行動しよう。	

評価 規 準	知識・技術	・飼育と環境に関する基礎的な知識を身に付けることができたか。 ・飼育に関する基礎的な技術・技能が身に付いたか。				
	思考・判断・表現	・実習・授業において適切な判断や工夫ができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・学習内容に興味を示し、積極的な発問や実習の態度が見られるか。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査、ノート提出、実習報告書提出、授業態度等で総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な姿勢） ○課題提出（小テスト及び長期休業中の課題）					